

地酒を買って蔵元や酒店支援

県庁で予約販売会

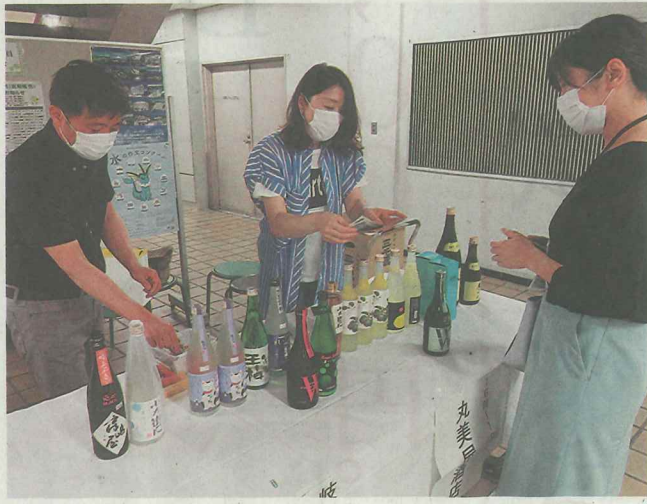
新型コロナウイルスの感染拡大で販売が落ち込んでいる県内の地酒の蔵元や酒店の支援に、なげよつと、県は職員向けの予約販売会を開いた。

五月末までに百四十本の予約があり、今月七日には県庁で岐阜市鏡島西の丸美屋酒店が販売。店主の溝口和宏さん(五三)が、製造過程や保存方法を説明しながら、予約済みの職員らに取り扱った酒店が限られている渡辺酒店(飛騨市)の「W(ダ

ブリュー)」などを手渡した。

溝口さんによると、飲食店向けの販売の落ち込みなどで蔵元や酒店は厳しい状況にある。特に対象区域で酒類が提供禁止となった五月以降は、飲食店向けの出荷が皆無になり、同店の売り上げは感染拡大前の半分になった。自宅飲みでは、比較的安価な大量生産の商品に人気が集まり、地酒は劣勢という。溝口さんは「岐阜の地酒は味のバラエティーが多い。好きな味を見つけてもらえれば」と話した。

(立石智保)



地酒を販売する丸美屋酒店の溝口さん(中)＝県庁で